

独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

滝沢ダムの一滴

埼玉県 秩父市立荒川中学校 三年 宮田 帆乃香

「キラキラキラ……。」

太陽の光が水面に反射して光り輝いている。

私が住んでいるここは秩父市大滝。全体の九割が山に囲まれ、杉や松などの針葉樹林が生い茂る、自然豊かな場所である。眼下には荒川の支流、中津川が流れ、ヤマメやイワナなどの魚が悠々と泳いでいる。

そんな大滝には『三峰神代神楽』という、伝統芸能がある。神楽は明治時代から滝ノ沢地区で受け継がれていたが、滝ノ沢地区はダムの底に沈んでしまった。それでも、毎年五月八日のお祭りで神楽を舞ったり、大滝中学校でも神楽師の方々に教えていただいたりしながら神楽を守ってきた。

しかし、大滝中学校はこの春荒川中学校と統合し、私の母校は廃校となってしまった。

神楽師の方々も高齢になり、大滝中学校が無くなるのと同時に、とうとう大滝の伝統芸能『三峰神代神楽』までもが消えてしまったのだ。幼い頃から神楽を見てきた私にとって、神楽が無くなるということはとても悲しい。きつと大滝のみんなも同じ気持ちであろう。

昭和四十年にダム建設の調査が始まったが、住民の反対意見も多かったため完成には時間がかかり、完成したのは平成二十年になった。以前、滝ノ沢地区に住んでいた方に話をしていた時、その瞳には涙が浮かんでいた。ダムを建設する為とはいえ、これまで住んでいた自分達の地区が破壊されてしまうということが、いかに辛いことか。

無くなってしまった地区は滝ノ沢地区だけではない。浜平地区、塩沢地区、廿六木地区。

四つの地区が無くなり、私達の学校が無くなり、神楽が失われたのはダムを造った影響が大きい。

住民達の生活を奪ったダムを造る理由があるのだろうか、私は怒りを

覚えながらダムについて調べることにした。

すると、ダムには重要な役割があることが分かった。

まず、大規模な洪水を防ぐことだ。大雨が降っても、ダムが雨水を貯めて少しずつ流しているから洪水の虞が無い。私の祖母は、

「昔は『鉄砲水』というものがあって、大雨の後にすさまじい音と勢いで水が流れてきて川が氾濫することがあって、大変だったんだよ。今はダムがあるから、鉄砲水がなくて安心だよ。」

と嬉しそうに話していた。

その上、ダムは下流に住む人達に水を供給している。雨が止んで全然降らなくなってしまった時に、少しずつ水を流している。そうすることで、東京都や私達、埼玉県の人達が水に困ることが無いようにしている。

他にも水力発電などの役割も果たしていることを知った。

調べれば調べる程、ダムは私達の暮らしになくてはならないものだということを感じた。実際、ダムを造ることで悲しんだ人はたくさんいる。しかし同時に、ダムが出来たことで笑顔になった人もたくさんいるということだ。そして今では、滝沢ダムは大滝にしっかりと根付き、私達の生活になくてはならないものとなっている。

初めは、ダムは無くてもいいのではないかと思った。しかし、今ではたくさんの人々がダムを必要としていることが分かった。人々の生活を支え、大切にされている滝沢ダムを私は誇りに思う。

建設までの様々な壁を乗り越えて出来たダムの水の一滴一滴を無駄にすることなく大切に使っていきたい。

滝沢ダムは、今日もたくさんの人々の暮らしを支えている。